

東 住 吉 区 ま ち づ く り ビ ジ ョ ン

目次

I まちづくりビジョンとは p.4

- 目的と位置づけ 6
- 策定の過程 7
- 対象区域と周辺区との連携 7

II 区の「いま」を捉える p.8

- 区の概要 10
- 将来予測 「都市のスポンジ化」 11
- 区が抱える資源と課題 12
 - 【住宅】良好な住宅ストックの充実 12
 - 【歴史・文化】歴史を醸す旧村のまちなみ 13
 - 【交通】良好な都心アクセス 14
 - 【農】都心近郊の農空間の残存 16
 - 【スポーツ】スポーツのまちづくりの推進 17
 - 【公園・緑地】長居公園を中心とした公園体系 18
 - 【生活】地域コミュニティの機能低下 19
 - 【防災】大規模災害の不安 20
 - 周辺区と共通する課題 21
 - まとめ 21

III 区の「これから」を考える p.22

- これからの社会トレンドと価値観の変化	24
ライフスタイルの変化	24
ICT の進歩	25
- めざす東住吉区での暮らし方	26
- 都市構造のイメージ	28
居住密度の考え方	28
空間整備の考え方	29
- まちづくりの実施体制	30
- ビジョンの運用方法	31

【附録】まちづくりのアイデア集 p.32

- 駅周辺・商店街への機能誘導	34
- MaaS をはじめとした交通の利便化	35
- パーソナルモビリティ利用の増進・利便化	36
- 歩行者ネットワークの形成	36
- ランドバンク等による戦略的な更新の誘導	37
- 公園をはじめとした緑地化の推進	38
- 旧村を活用したまちづくり	40
- 農空間の保全・創出と農体験の促進	41
- 多様なスポーツ機能の誘導	41
- 健康スマートシティの推進	42
- 大学と連携したまちづくりの推進	43
- 長居公園・植物園のリニューアル・活用促進	44
- 天王寺大和川線に隣接するエリアの一体的な活用	44
- 地域の顔となるモビリティの走行	44

* 脚注・参照	46
---------	----





I まちづくりビジョンとは

本章では、東住吉区まちづくりビジョンの目的や、位置づけ、対象区域など、まちづくりビジョンの概要について説明します。

- 目的と位置づけ
- 策定の過程
- 対象区域と周辺区との連携

明治 17 年（1884）頃の東住吉区周辺の地図 *

目的と位置づけ

区のまちづくりの 現状

- ・東住吉区では、東住吉区地域福祉計画や東住吉区地域防災計画のほか、『**東住吉区将来ビジョン**』を策定し、「ニア・イズ・ベター」の考え方のもと、区長のリーダーシップにより、区の地域特性や実情に応じた施策・事業を展開し、区の特性を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

区のまちづくりの 課題

- ・しかし、道路、公園、交通ネットワーク、土地利用形態など、『将来ビジョン』の計画期間5年間では描ききれない**ハード面での将来的なまちづくりの方向性**が定まっていません。

まちづくりビジョンの 目的

- ・そこで、『将来ビジョン』の別冊として、**中長期的な視点でまちの課題を明らかにし、目標とする将来像を定め、その実現に向けた施策・事業を戦略的に展開していくための指針**を、『**東住吉区まちづくりビジョン**』にて示します。
- ・目標年次は、おおむね20年の中長期的な見通しとして、2040年とします。

めざす将来像

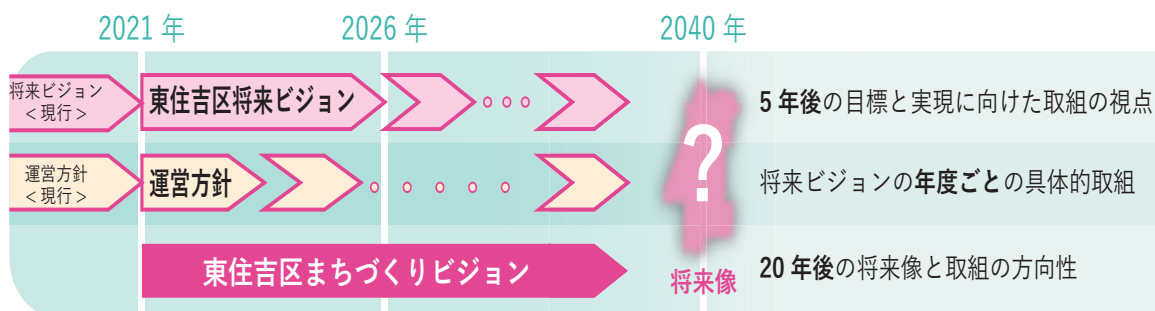
子どもが輝き、みんながしあわせなまち

未来を担う子どもが夢を持って生き生きと輝き、みんながしあわせになることをめざしましょう。

将来像を実現するために、3つの目標を掲げます。

- みんなで子どもを育てるまち
- みんなが健康で安心して暮らせるまち
- みんながつながるまち

東住吉区将来ビジョン 2021-2025 【抜粋】



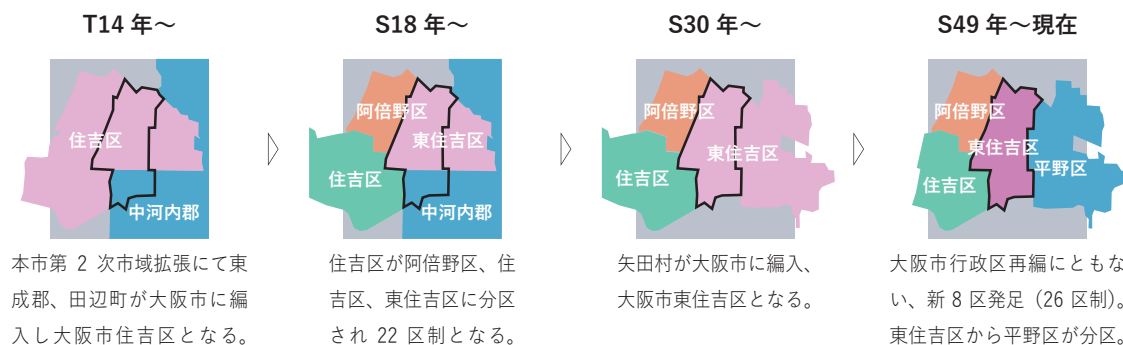
本ビジョンの位置づけ

策定の過程

- ・本ビジョンの策定に先駆け、平成 30 年度に『地域資源の有機的連鎖性促進のための調査』を実施し、本ビジョンを策定していくうえでの基礎資料として、事例等を通じた全国的な都市を取り巻く状況の整理、区の状況や課題だし、それらの内容をふまえた区の全体像の取りまとめを行いました。
- ・また、今回のビジョンの策定にあたっては、関連する民間事業者や大阪市関連部局へのヒアリングを行い、意見交換を行っています。
- ・なお、平成 30 年度に策定した『矢田南部地域まちづくりビジョン』は、本ビジョンの考え方に基づくものとして位置づけます。

対象区域と周辺区との連携

- ・対象区域は東住吉区全域とします。
- ・隣接する阿倍野区・住吉区・平野区は、旧住吉区から分区するなど、周辺区は市街化の過程やこれまで辿ってきた経緯、資源や現在抱える課題に共通点があることから、周辺区と連携しながら課題の解決に取り組んでいきます。



行政区の変遷